



▶ イベントを楽しむ参加者

おかえり。2021 夏

IN ヤマチク

新型コロナウイルスの影響によって遠出や外出する機会が減る中、近場で楽しめる場所をつくらうと、7月22日～25日までの4日間、株式会社ヤマチク(山崎清登代表取締役)の第2工場イベントが開かれました。

イベントには、県内の窯元や雑貨店、福岡県の工芸品店など飲食店を含め約20店舗が出店し、展示や販売を行いました。また、ワークショップや工場見学を楽しむ来場者も多く見られました。

久留米市から訪れた親子は「工場見学や体験会など子どももすごく楽しんでいる。イベントがない中でこのような催しがあるのはありがたい」と話しました。

新型コロナウイルス鎮静祈願

なんかんぎおんさん

「なんかん夏まつりぎおんさん」(なんかん夏まつり実行委員会主催)の神事が8月7日、関町の八剣神社で行われ、実行委員や八剣会、商工会など約30人が無病息災や来年のまつり開催を願いました。

コロナ禍の影響を受けて昨年同様まつりは中止となり、神事のみで開催となりましたが、関係者は4月から大蛇山の製作にかかり、全長4m幅12mの大蛇山を作り上げました。

上田俊次実行委員長は「コロナ禍で今年もまつりが中止になり残念な気持ちだが、来年こそは盛大に開催してまちを盛り上げたい」と話しました。



▶ 勇壮な姿を見せる大蛇山

笑顔! 涙! 真剣勝負!

町子ども会球技大会

7月18日、町子ども会連合会(日高香奈恵会長)は子ども会球技大会を農村広場グラウンドと町農業就業改善センター体育館で開催し、町内各子ども会8チーム63人が参加しました。

子どもたちはソフトボールとビーチボールバレーの2種目に分かれ熱戦を繰り広げ、会場には元気な声が響き渡りました。

日高会長は「今日の試合で嬉しい気持ちや悔しい気持ちを忘れないで」と語りかけました。

【大会結果】

ソフトボールの部	優勝	四小子ども会
ビーチボールバレーの部	優勝	四小ガールズ

▶ ビーチボールバレーの様子



▶ 講師の話真剣に聞く児童

スマホに振り回されない生活を

第二小学校でスマホ携帯安全教室

第二小学校(隈部孝二校長)で7月19日、4～6年生を対象にスマホ携帯安全教室が行われました。これは、スマートフォンの利便性や危険性を知り、スマートフォンの使用によって生じるトラブルを防ぐことを目的に行われています。

この日は、NTTドコモの岩下さんを講師に招き「思いやり～自分やまわりの人たちを大切にしよう!～」をテーマに、話し合いを交えながらオンラインでの授業が行われました。

話を聞いた6年生の武田愛子さん(豊永)は「悪いサイトに気を付け、フィルタリングを設定するなど対策していきたい」と話しました。



▶ 女子ソフトテニス部の皆さん

最後まであきらめない

南関中学校女子ソフトテニス部

南関中学校(永杉尚久校長)女子ソフトテニス部の8人は佐藤町長を訪問し、8月5日に長崎県で開催される第52回九州中学校ソフトテニス競技大会への出場を報告しました。

同部は7月17日に開催された県大会の団体戦で準優勝し、九州大会へのキップを手に入れました。

キャプテンの多田隈綾乃さん(上坂下)は「九州大会出場を目指して今まで頑張ってきた。最後まであきらめず戦いたい」と力強く語りました。佐藤町長は「県大会での悔しい思いを取り返せるよう、九州大会でも活躍してください」と激励しました。

花きの展示

町内花き農家を応援

町では、県事業である新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時給付金を活用し、役場敷地内の花壇に町内の福島園芸、本田園芸で生産された花を植えています。

生産者の福島さんからは「ニチニチソウは次々につぼみを開き、暑さにも強く、晩秋まできれいな花を咲かせます」と説明があり、本田さんは「花農家を気にかけてもらいありがとうございます。11月頃まで見頃です。気軽にご覧ください」と話しました。

9月からはバラを使ったフラワーアレンジメントを庁舎内に飾る予定です。



▶ 花壇を彩る花々

朝から体を動かしてフレッシュに

各小学校でラジオ体操

コロナに負けない体づくりをしようと、町老人クラブ連合会、町地域婦人会、町子ども会連合会の三者は、7月26日の早朝、各小学校でラジオ体操を開催しました。

この日、老若男女問わずたくさん参加者で体操を行い、フレッシュな体と気持ちになりました。

一子ども会の平山大介さん(豊永)は「世代間を超えて地域交流できる機会が必要。運動不足の解消にもつながれば」とさらに広げたい気持ち。また、参加した一小の児童は「みんなとラジオ体操ができて楽しかった。朝から体を動かして気持ちいい」と元気一杯でした。

▶ ラジオ体操に励む児童



▶ 石原代表取締役(左)

次世代にまで繋がる環境教育を

熊本いいくに県民発電所

熊本いいくに県民発電所株式会社(石原靖也代表取締役)は7月20日、町の環境活動に対する支援として、150万円を寄付しました。支援は今年で5回目となります。

同発電所はエコアくまもと(下坂下)の広大な屋根に太陽光パネルを設置して発電事業を行っており、利益の一部を県民や地域などに還元しています。

石原代表は「町の子どもたちへの環境教育に役立て欲しい」と話し、佐藤町長は「環境学習を受けた子どもたちが大人になってからも環境保全をリードしていけるような使い方をしたい」とお礼を述べました。